

レアメタルの市況予測 **メタルドゥ・藤田社長寄稿**

大きな変動要因なく Ni, Co 相場が横ばいへ

今年7～9月のニッケルとコバルト相場予測について、藤田國廣氏(メタルドゥ 社長)に寄稿してもらった。

欧米は小幅な動きに留まり中国はインフレ抑制策で一服

6月末時点では経済・社会的な問題で非鉄・レアメタル全般の国際価格を大きく変動させる要因が見当たらない。6月25日に始まったG8・G20の主脳会議も、財政再建や景気刺激などと各国の立場や思惑が絡まって、明確な方向性が出てこないと思われる。ヨーロッパとアメリカ経済の様々な指数は小幅な動きで推移し、市場にインパクトをあたえる要因がない。慣例のパッケージシーズンにも入るため、トレードも閑散期に入る。(経済情勢が)可も不可もなくといった状況下では、投資マインドも様子見に入るのが一般的。中国も、現在の金融政策がインフレ抑制にあるため、製造業が在庫の積み上げを抑えられ、(ニッケルの買いが)一服状態。ただし、人民元の上昇が中国の(ニッケルの)購買力を増すことになりえるうえ、今年秋以降に予測される世界経済回復への期待感が先行投資として現れる可能性もあり、こうした要因が数少ないプラス材料と考える。

ニッケル相場(LME)は、LME在庫が減少したのに価格が下落したほか、中国の含ニッケル銑鉄の生産状況からみると、ここ3ヵ月の間にニッケルが高騰する可能性は少ない。相場はlb当り8.62～9.98ドル(t当り19,000～22,000ドル)の範囲で動き、後半ほど強くなる傾向になると思う。

Co相場は5ヵ月半で2割下落もこれ以上の下げはない

コバルトの相場(LMB)はこれまで、5ヵ月半を駆けゆくと約2割(4.4ドル/lb)値下りしてきた。この間は、実需給は極めて平穏をたもっていた。コンゴ民主共和国の

(精鉱・地金の)供給も安定している。(化成品の製造拠点の)中国は、同国内の需要が堅調であるものの、製造業で在庫調整が出て、一部のコバルト製品で過剰感が出始めている。最終用途では、2次電池やスーパーアロイなどのマーケットは、(高成長の)可能性が変わっていないものの、影響が出始めるのは今年末や来年からと予測されている。

今後の相場は、現在以上の下落にはつながらず、ここ3ヵ月間は大きな動きがないと思われる。低品位品(99.3%)が17.0～18.5ドルと予測する。